兵庫県
保険医協会
西宮
芦屋
支部ニュース

No. 352
2020・3・5

〒662-0832
発行　兵庫県保険医協会　西宮・芦屋支部
西宮市甲風園一―一―五　法貴皮膚科内
連絡先　兵庫県保険医協会
電話〇七八（三九三）一八〇一

阪神・淡路大震災25年の集い

災害の教訓を風化させないことが大切

震災からの復興を検証し課題を交流

西宮・芦屋支部は1月18日に西宮市立勤労会館大ホールで「震災経験を語り継ぐ・風化させない・新たなつながりを拡げる」ために阪神・淡路大震災25年の集いを開催。医療関係者、市民など200人が参加した。講演では兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科科長の室崎益輝先生と福島県南相馬市・ほりメンタルクリニック院長の堀有伸先生、元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章先生など計7人の演者・報告者が、それぞれの視点から阪神・淡路大震災や東日本大震災後の復興の問題点を報告した。林田英隆先生の感想文を掲載する。

講師の室崎先生（写真左）、堀先生（写真中央）、小出先生　（写真右）

災害大国、我が国、日本では25年前の災害の教訓を風化させないことが大切です。そのため、西宮・芦屋支部では定期的にこの時期に講演会等を開催しています。今回は午後1時から5時までの長時間、おなじみの二胡演奏者の劉揚氏の心にしみる演奏から始まり、それぞれの立場から7人の演者の貴重な講演を聞くことができました。

講演会終了後、市民らとディスカッションし震災の課題を交流した

1席目の西宮・芦屋支部副支部長の広川恵一先生は近年の風水害の経験、災害時の開業医の役割、25年前の大震災で学んだこと、被災地が全国からの「支援」を支えることなどの講演でした。いったい、先生のどこにあのエネルギーがあるのか感心致しました。

2席目の室崎先生は震災後の生活再建の戦略や法制が欠落していたために、長期にわたる被災生活を余儀なくされ、深刻な間接被害がもたらされていると話されました。これらの被害の軽減と生活回復の取り組みが強く求められますが、まだ大震災の検証が充分に行われていないというお話でした。また、課題とプロセスの検証が大切であり、安心と安全な社会を作ることが必要だとも話されました。

3席目の西宮・芦屋支部世話人の上田進久先生は阪神・淡路大震災の復興時の解体作業でのアスベスト被ばくについてお話されました。アスベストは青石綿、茶石綿、白石綿がありますが、国のアスベストの大気濃度発表は一番人体に害の少ない白石綿のみの濃度であり、実被害は今の15倍にもなるというお話でした。

4席目は現住居者の丹戸郁江氏が西宮でも裁判訴訟中の震災後の借り上げ住宅の神戸での訴訟問題についてお話される予定でしたが、本人体調不良のため、阪神・淡路大震災の際に看護ボランティアも務められた日本保健医療大学の阿部由香氏が代読されました。震災後被災者向けに賃貸で提供した借り上げ住宅が20年の期間が過ぎたとして、神戸市が4人に住宅の明け渡しを求めた訴訟です。神戸市地裁は4人に退去と期間後の賃貸相当額の支払いを命じました。住民側は高齢者で、入居許可書に契約期限や明け渡しの義務の記載がないとして明け渡し主張は無効と訴えてこられたものです。原稿をスライドにしてお話を聞けたらよかったと思いました。

5席目は南相馬市で開業されている精神科医の堀先生で、遠路はるばる西宮まで来ていただき、東日本大震災と福島原発事故の実情についてお話いただきました。直接死1万5893人はほとんどが津波によるもので、いまなお、行方不明者が2556人もおり、避難者は県内14万7772人、県外4万8302人という数に驚かされました。行政のミスで、線量の高い方向にわざわざ逃げてしまった人々がいたことや、病院や老人保健施設からの避難によって、多くの高齢者が亡くなられたこと、以前に住んでいた家に放射線線量が高いため戻れない人の悲痛な叫びについても話されました。先生はこのことをベトナム戦争で行方不明となった兵士の家族が体験した「あいまいな喪失」と同じで「故郷のあいまいな喪失」と表現されました。

（裏面に続く）

（表面の続き）

あいまいな喪失をどうすることもできない無力感、その問題だけでなく生活全般に広がり、前向きに生きることを阻害し、さまざまな場面で凍結（Ｆｒｅｅｚｅ）を起こし前へ進めなくなり、多くの人が自らの命を絶ったそうです。原発事故の怖さを直接聞くことができました。

６席目は「外国人から見た大震災」と題して、久留米大学外国語教育研究所講師のディヌーシャ・ランプクピティア女史の話です。彼女はスマトラ地震、熊本地震を体験されており、その時の体験から日本語の微妙な言葉の理解に苦労したと、英語圏以外の外人にも分かる情報発信をしてほしいこと、また外国人の果たす役割があることを話されました。

最後の講演は「原発のない世界へ」と題して、以前から一貫して地震大国日本では原発は危険であると発信されいてる小出先生のお話です。原子力発電は古めかしい蒸気機関であり、非常に効率の悪い発電であり、今回の福島原発の爆発による大気中に放出したセシウム１３７の量は広島原爆の実に１６８倍だそうです。いまなお、放射線管理区域の基準値４万ベクレルを超える地域があると話されました。国は「原子力安全神話」から「被ばく安全神話」に転換しようとしているとも話されました。何と、恐ろしい国だろう!!どんな機械も時に故障し、事故も起こす。人間は神ではない。原子力発電所も機械であり、事故から無縁ではありえません。皆は原発がなくなれば、電力が不足すると刷り込まれていますが、震災後、国の原発が一時稼動停止していた時もさほど電力不足は生じませんでした。要は無駄な電力を節約することが大事で、原発のない世界を創りましょうと述べられました。

この長時間にわたり司会を担当された西宮・芦屋支部世話人の坂尾将幸先生、村上博先生お疲れ様でした。

【西宮市・林田クリニック　林田 英隆】

難病助成制度の改善求める請願
西宮市議会が否決

西宮・芦屋支部は12月の西宮市議会に「指定難病医療費助成制度で『軽症』とされた難病患者に対する国への意見書提出を求める請願」を提出したが反対多数で不採択となった。

紹介議員には花岡ゆたか（市民クラブ改革クラブ）・田中あきよ（無所属）・まつお正秀（日本共産党西宮市会議員団）・よつや薫（無所属）各市議が名を連ねて、筆頭紹介議員の花岡氏が12月12日の健康福祉常任委員会で趣旨説明を行い、審議の上、４対３の反対多数で否決された。請願に賛成した委員は宮本かずなり（改革）・一色風子（無所属）・佐藤みち子（共産党）各市議、反対した委員はうえだあつし（政新会）・大迫純司郎（会派・ぜんしん）・大原智（公明党議員団）・田中正剛（政新会）各市議。12月18日の本会議でも反対多数で否決、賛成の会派は改革・共産党、反対の会派は政新会・公明党・ぜんしん・維新の会だった。

この請願活動は、国の難病助成制度に、２０１５年1月から新たに「重症度基準」が導入され、難病認定患者であってもこの基準で「軽症」と認定されると医療費助成の対象外とする改悪に対するもの。は全国で14・6万人に上る。協会は、地域医療部会や各支部での討議を経て請願を行い、これまで明石市・加東市・小野市・宝塚市・川西市・猪名川町で採択されている。

芦屋非核平和祈念のつどい
核兵器禁止条約の早期発効を願う

芦屋非核平和のつどい実行委員会は、12月19日に芦屋市民センターで「芦屋非核平和都市宣言34周年・被曝74周年　非核平和祈念のつどい」を開催。市民ら60人が参加した。

つどいでは、「被爆者として『生かされた』74年」と題して、兵庫県原爆被害者団体協議会事務局次長の副島圀義氏が講演。広島で体内被曝した体験を母親の手記をもとに語った。

また、ドキュメンタリー映画「核兵器の終わりの始まり」を上映。国際組織やＮＧＯのリーダーたち、各国の反核活動家、学者、国連の会議で議長を務めた外交官ら14名のインタビューを通じて、核兵器禁止を国際法として確立させるため、ＮＧＯネットワークＩＣＡＮがどのように活動してきたかが描かれた。

つどいの最後には、核兵器禁止条約の早期発効を願うアピールが提案され、参加者全員で採択された。

このつどいは、１９８５年に芦屋市議会が非核平和都市宣言を決議したことを記念して市民主催で毎年開催されており、西宮・芦屋支部が実行委員会に参加している。

世話人会だより

西宮・芦屋支部は1月31日（金）に西宮医療会館で世話人会を開催。４人が参加した。

【予定・企画】
①保険請求事務講習会（２・８～９）
②市民学習会「ハンセン病問題と私たちの責任」（２・15）
③第14回被災地交流／物産・物品展（２・15）
④健康と医療について語り合う会（３・13）
⑤２０２０年度診療報酬改定研究会（３・26）
⑥漢方研究会（５・30）

【予定・企画（日時未確定）】
①近年開業医懇談会
②認知症外来診療経験交流会

【協会・保団連行事】
①第36回地域医療を考える懇談会（２・１）

【報告】
①健康情報テレホンサービス
②阪神・淡路大震災25年の集い

＊世話人会の日程は毎月第４金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

2020年度診療報酬改定研究会（西宮会場）

３月上旬にハガキをお届けし、会場でテキスト１冊と引き換えます。
診療報酬の改定内容について協会講師陣がわかりやすく解説します。
会員の先生・事務スタッフの皆様ご参加下さい。

医科　３月26日（木）午後２時～
なでしこホール